

大会注意事項

(1) 受付は、必ず当該校校長・教員である顧問の先生もしくは、部活動指導員が行うこと。(保護者・地域指導者(外部指導者)は不可)
※引率者のない学校については受け付けない。

(2) 登録について

- ・登録メンバーのオーダー変更は認めない。
- ・メンバー変更は補員を起用する場合のみとし、その旨を監督が試合場主任に申し出る。
- ・変更後は抜けた生徒の復帰は認めない。また、いかなる場合でもポジションの変更は認めない。
- ・5人未満チームについて、4人チームは次鋒を、3人チームは次鋒、副将を除く。なお、当日選手が欠場のために3人以下となった場合、補員は優先順位(大将、先鋒、中堅、副将、次鋒)に従って補充する。

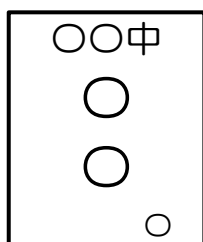
(3) 代表戦の出場者は、登録メンバー7人の中から選ぶことができる。
補員を選んだ場合、次の試合のその補員のポジションは補員のままである。

(4) 試合について

【着装の徹底】

- ・剣道具の紐はきちんと締め、面紐は結び目から40cm以内の長さとする。
- ・結ぶ位置は、物見と同じ高さにする。転倒時のクッションの役割もするので、この高さがない場合は、試合を止めて結び直させる。
- ・校名・校章等の刺繍(剣道着・袴)は、大きさ、色を含めて華美にならないよう配慮する。面金を黒塗りにした面など、通常の配色でない面の使用を禁止する。面紐・胴紐は、紺色系か白色がふさわしく、華美にならないよう配慮する。面乳革は、大きさ、色、模様を含めて華美にならないよう配慮し、色は黒色または紺色とする。
- ・サポーター等(足袋、テーピング、コルセットを含む)の使用は、医療上必要と認められた場合に限り使用を認める。滑り止め(補強の布地も滑り止めと判断される場合もあるので、あいまいなものは避ける)のついていないものは使えない。(使用の際は、試合場主任(審判主任)に事前に申し出る)

【名札】様式は、次のものに統一する。



黒または紺の布地に白の文字で学校名や個人名のみを記述する。
道場名およびポジション名のものは不可。

同姓の場合は右下に名前を明記する。(区別ができるように)

中学校以外の場合は略称を「中」の代わりに用いる。

※〇〇中等学校 → 〇〇中等 〇〇義務教育学校 → 〇〇義務

【竹刀の検定】

※化学繊維竹刀の使用を認める。

重さ＝男子 440g以上 女子 400g以上 **全長**＝114cm以内

先革長＝5cm以上

先革の直径（対辺方向）＝男子 25mm以上 女子 24mm以上

※**先革の先から1.5cm**を計測

ちくとう直径（対角方向）＝男子 20mm以上 女子 19mm以上

※**先革の先から8cm**を計測

全剣連：竹刀検査用基準器説明書・剣道用具安全基準の検査要領より

※破損したもの、破損箇所をテープ等で補強したものは使用しない。

※柄革は、滑り止め（ゴム等）や模様等のない無地のもので、白色とする。

※鍔の色は、白・革色とし、直径9cm以下とする。

※**その他 安全な竹刀で、安全な剣道を～竹刀指導の方向性～に適した竹刀**

【 小 手 】

小手の長さ：該当者が肘を付いた状態で手首の可動部分までの1/2以上を保護

小手のえぐりの深さ：小手ふとん最長部との長さの差が2.5cm以内

【 目 印 】

※紅白の目印は各校で用意する。

※幅5cm、長さは70cm。

【 整 列 】

①団体戦の整列は、審判員側に先鋒が位置する。整列時・開始時は、先鋒・次鋒、終了時は大将のみが面・甲手をつけ、竹刀を持つ。

②正面への礼は、第1試合および決勝戦のみとする。

③待機場所への入退場は、必ず全員そろって礼をおこなう。

【 試合中 】

①控えの選手は、試合場から少し離れて座る。次の選手は立ってもよいが、試合場のすみに控える。先鋒、大将戦の時は、正座をする。

②試合者は審判が移動し、所定の位置につくまで試合場に入ってはならない。

③試合者は、3歩で蹲踞できる位置まで試合場に入り、その位置で互いに礼をする。礼は相互同時に行い、一方的にならないようにする。

④故障で足袋やテーピングをする場合は、その旨を監督が試合場主任（審判主任）に申し出る。

⑤タイムを要求する場合は、間合いを切ったうえではっきりと主審に申し出る。独断で試合を中断してはならない。

⑥ストップウォッチ等を試合場に持ち込まない。腕時計も着用しない。撮影も行わない。

- ⑦応援は拍手のみで行い、声を出しての指示や声援はしない。
- ⑧相手選手の人格を尊重し、勝敗のいかんにかかわらず常にさわやかな態度に終始すること。
- ⑨個人戦・団体戦の代表者戦は、延長は勝敗の決するまで無制限で行う。ただし、熱中症対策のため、試合開始から15分（延長開始からではない）を目安に水分補給の時間を確保する。
- ⑩礼法については、1回戦より「神奈川県方式」の礼法を行う。
- ⑪選手の交代時に、胴つきや入れ替わりに必要のない行為は行わない。
- ⑫その他、全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則・細則」及び（財）日本中学校体育連盟「剣道部申し合わせ事項」による。

（5）会場について

- ①試合前の練習等で外に出る場合は下履きを利用し、裸足での出入りは慎むこと。
- ②試合会場内へのビン・缶類、菓子類の持ち込みは禁止する。
- ③貴重品は、各学校個人の責任において管理する。
- ④昼食その他のごみは、各学校・各自で持ち帰る。
- ⑤その他、各会場による使用の仕方に従うこと。剣道を学ぶ者として恥ずかしくない行動を心掛けること。

（6）審判員、監督、顧問服装

- ・ Y シャツ（半袖・白無地）→ボタンダウンは認めない。
- ・ ネクタイ（えんじ色）→全剣連の通達通り着用しない。（6月～9月）
- ・ ズボン（グレー無地）
- ・ 靴下（紺色）

オーダーミスに対する措置について

（1）試合開始前（そのポジションの試合開始の宣告の前）に発覚した場合は正規のオーダーに改めさせ、特に罰則は与えない。

ただし、公印を押した申込用紙が大会要項・注意事項・申し合わせに則っていないことが発覚した場合は、変更は認めず原則失格とする。

（2）**試合中あるいは試合後に発覚した場合は次のように措置する。**

例えば、次鋒戦の最中にオーダーミスに気がついた。先鋒戦に次鋒がでた。次鋒戦には中堅がでた。中堅には副将が出る予定だった。

①その試合場の審判主任へ異議を申しでる

②審判主任は先鋒と次鋒のオーダーミスを確認。

※先鋒、次鋒、中堅すべて、相手に二本を与えて負けとする。

※先鋒、次鋒、中堅とも既得本数は認めない。

※副将は正しいオーダーに変えて試合ができる。先鋒・次鋒戦で選手が出ていないため。尚、試合後の発覚とはそのチームの団体戦が終了し、そのチームの次の団

体戦が開始するまでに発覚した場合をいう。(決勝戦の後は閉会式開始宣告まで)

(3) トーナメント戦の勝敗においては次のように措置する。

※試合中に発覚した場合は、前述の様にその時点で措置する。

※試合後に発覚した場合は、直前の試合に対して措置をする。

それよりさかのぼって措置をしない。

例えば、2回戦終了後発覚した場合は、2回戦における勝敗を前述のとおり措置する。1回戦においては措置を行わない。措置後、ミスしたチームが団体戦として勝利しているならば、3回戦への出場を認める。チームとして敗北しているなら、3回戦へは、2回戦の相手だったチームが出場する。加えて、1回戦は、ミスしたチームの対戦相手チームの「敗退」を「不戦勝」と変更する。ただし、1回戦の対戦相手と、2回戦の対戦相手の試合は行わない。

※個人戦(違う者が出ていた)においては、試合中なら試合を止め既取得権を剥奪し、その試合は即負け。試合後に発覚した場合は、全ての試合を負けとするが、以前の対戦相手の順位は繰り上げない。

(4) リーグ戦においては次のように措置する。

(例えば、A・B・C 3チームのリーグ戦におけるA対Bの対戦で、Aチームが先鋒と次鋒のオーダーミス(入れ替わっていた)に次鋒戦で気がついた場合)

※Bチームに対しては、先鋒、次鋒とも相手に2本を与えて負けとし、ともに既得本数は認めない。

※Cチームに対しては、A対Cの対戦がオーダーミス発覚の前後であっても先鋒、次鋒とも相手に2本を与えて負けとし、ともに既得本数は認めない。

(5) オーダーミスのあったチームが勝ちあがった場合は次のように措置する。

例えば、先鋒と次鋒のオーダーミス

※ミスのあった2選手の以後の出場は認めない。

※トーナメント戦においては補員の出場は認める。リーグ戦最中は補員の出場は認めない。

試合放棄に対する措置について

・大会において試合放棄が行われた場合、原則として以下の措置をとる。

試合放棄とは事故や負傷などによる棄権ではなく、運営や判定に対する不満により、試合を一方向的に放棄した場合をいう。

(1) 試合放棄の事実確認及び事情聴取

審判長または審判主任は、監督及び選手に対して試合放棄の事実を直接確認し、その事情聴取にあたる。

(2) 競技上の取り扱い

剣道試合・審判規則第31条(棄権)、細則28条にのっとり以下の通り処理する。

①試合を放棄した者は負けとし、その後の試合に出場することができない。

②個人戦においては、相手に2本を与えて負けとする。既得本数は認めない。

- ③団体戦においては、相手チームに5勝10本を与えて負けとし、既得本数は認めない。
 (リーグ戦においてはそのリーグすべての試合を、相手チームに5勝10本を
 与えて負けとし、既得本数、既得権は認めない。)
 ※補足：団体戦においては、チームとして試合放棄した場合とチーム内の
 一選手が試合を放棄した場合があり得るが、ともに上記③のとおり処置する。

- (3) 試合放棄した個人または団体(監督も含め)に対する事後の指導措置
 中体連剣道部長は、副部長・競技力向上委員長と協議し当該者に対し指導を講ずる。

リーグ戦の勝敗について

予選リーグの場合

- (1) 3分3本勝負、勝敗が決しない場合は引き分けとする
 (2) 得点は勝ちチーム1点・引き分け0.5点・負け0点とし、得点、勝者数、
 総取得本数、の順で順位を決める。
 (3) 1位が3チーム以上の時は、任意の代表者戦を3分3本勝負でおこない、勝敗が決
 しない場合は延長戦の時間を区切らず(水分補給はさせる)勝敗が決するまで行い、
 勝数、総本数の順で順位を決める。
 任意の代表者を試合ごとに監督が審判主任に届ける。(試合ごとに変更可)
 なお、試合の順序は当初のリーグ戦を同じ順で行う。(該当しない試合はとばす)
1位が2チームの時は、3分1本勝負、勝敗が決しない場合は延長戦の時間を区切
 らず(水分補給はさせる)勝敗が決するまで行う。
 (4) (3)においても順位が決定しない場合
 当該チームが3チーム以上の場合:(3)をもう一度行う。

決勝リーグの場合

- (1) 3分3本勝負、勝敗が決しない場合は2分間の延長を1回行う。それでも勝敗が決
 しない場合は引き分けとする。団体戦の勝敗が決した後は延長戦を行わない。
 (2)・(3)・(4)は同様。

※団体戦の試合の延長について(勝敗の決すると判断する線引き)

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
A	〇〇				
B					

先鋒：2本勝ち、次鋒～副将：引き分け、大将戦が3分経過時に有効打突が無ければ
 このあと、2本とつてもBチームの勝ちはないので勝敗が決していると考える。
 ゆえに延長戦は行わない。

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
A	○				
B					

先鋒：1本勝ち、次鋒～副将：引き分け、大将戦が3分経過時に有効打突が無くともこのあと、延長時に2本取り返せば、Bチームにも勝ちの可能性があるので勝敗は決していないと考える。ゆえに延長戦を行う。

不正竹刀に対する措置について

- (1) 剣道試合・審判規則、剣道試合・審判細則、中体連申し合わせ事項、本紙面の注意事項に則っていない竹刀は、不正竹刀とする
- (2) 不正用具の使用者は負けとし、相手に2本を与え、既得本数および既得権を認めない。
- (3) 上記措置は使用発見以前の試合までさかのぼらない。
- (4) 使用が発見された者は、その後の試合を継続することができない。ただし、団体戦における補員の出場は認める。

- ・生徒は、剣道を学ぶものとして恥ずかしくない行動を心がけること。
- ・顧問（監督）は、自校の生徒はもとより会場に来ている他校の生徒に対しても場面に応じた指導を行うようお願いします。